

平成18年度 第10回業績評価委員会医学研究評価部会議事要旨

1. 日時：平成19年2月23日（金） 10:00～15:30

2. 場所：労働者健康福祉機構本部 18階第1会議室

3. 出席者：櫻井委員長、吉田委員、高田委員、柳澤委員、堀田委員、山田委員
和田専門委員、宮下専門委員、櫻木専門委員、清水専門委員、相澤専門委員、
工藤専門委員、白神専門委員、戸倉専門委員
関原総括研究ディレクター、島浦勤労者医療課長

4. 議事

(1) 開会

委員8名の内6名、各分野の専門委員1名以上の出席があり、定足数を超えていることから医学研究評価部会が成立していることを宣言して開会。

(2) 理事長から櫻井委員長へ「振動障害」、「働く女性のためのメディカル・ケア」、「化学物質の曝露による産業中毒」、「粉じん等による呼吸器疾患」、「アスベスト関連疾患」、「騒音、電磁波による感覚器障害」、「高・低温、気圧、放射線等の物理的因子による疾患」分野の中間評価について諮問

(3) 中間評価について

あらかじめ実施された書面評価（評価科目：研究開発計画の達成度（成果）、今後の研究開発計画の妥当性、研究継続能力）を踏まえてヒアリングが行われ、その後、各委員、専門委員により討議が行われた。

「振動障害」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「働く女性のためのメディカル・ケア」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「化学物質の曝露による産業中毒」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「粉じん等による呼吸器疾患」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「アスベスト関連疾患」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「騒音、電磁波等による感覚器疾患」分野研究の実施について申請どおり承認されたが、気をつけるべき点として以下のコメントがあった。

- 1 糖尿病の発症していない症例を分析するとともに、内科医を共同研究者に追加するなど内科医との連携を図りつつ、ケースコントロールスタディをとることの可能性について、研究アドバイザーと相談・検討しながら、各症例のバックグラウンドを調査し、研究を進めること。
- 2 退職者に対して手術を行った症例が、職場復帰につながっていないケースについても、データ分析を行うこと。

「高・低温、気圧、放射線等の物理的因子による疾患」分野研究の実施について申請どおり承認されたが、気をつけるべき点として以下のコメントがあった。

- 1 理美容業界を対象とした研究については、パッチテストを最優先として取り組むこと。
- 2 データベースの作成にあたっては、化学物質の名称だけでなく、できる限り物質の特性を盛り込むことを検討すること。
- 3 ガイドラインの作成にあたっては、実現可能性を勘案し、利用者にとって分かり易く参考になるようなものを検討すること。
- 4 上記1～3の推進にあたっては、専門家と十分に相談すること。